

犯行予告の書き込みについて

埼玉県教育委員会


インターネット上では日々さまざまな問題投稿が行われていますが、そうしたものの一つに犯行予告の書き込みがあります。SNSや掲示板などのサービスで、殺人や爆破などの犯行を示唆する書き込みを行う人がいるのです。

実際の書き込みの例とその影響について

では、実際にインターネットに書き込まれる犯行予告はどのようなもので、書き込んだことによってどのような事態を招いてしまうのでしょうか。実際にあった犯行予告の例を挙げて説明したいと思います。

■ ■ 掲示板

〇月×日に■ ■ 駅に放火します。



C太は軽いいたずらのつもりで、匿名で、掲示板に犯行予告を書き込みました。

通報しといたw

拡散拡散



しかし、閲覧者たちによって書き込みを広められ、大きな騒ぎになりました。



その結果、多くの人に迷惑をかけることになり、後日、C太の家には警察が訪ねてきました。

インターネット上の犯行予告には、この事例のように、投稿者が実際に犯行を行うつもりはなく、いたずらやストレス発散を目的に軽い気持ちで書き込んだというケースが多々あります。しかし、書き込みを見た人には、その真偽がわかりません。そのため、万が一の場合に備えて、警察が特別な体制をとって警備にあたらなくてはならなくなったり、犯行予告の対象となった機関が通常の営業を行えなくなったり、イベントを中止しなくてはならなくなったりと、周囲に多大な影響を与えてしまいます。

書き込みには必ず記録が残されている

インターネットにはSNSや掲示板など、匿名で投稿できるサービスがたくさんあります。こうしたサービスでなら、個人を特定されることはないし、犯行予告を書き込んでも大丈夫だろう、と考える人もいるかもしれません。

しかし、インターネット上の書き込みは、「いつ、どこで、どの機器によって書き込まれたものか」という記録が必ず残されています。犯行予告が書き込まれると、警察がこの記録を調査するため、投稿者の身元を特定することができるのです。

犯行予告の書き込みは、実際に犯行を行うかどうかにかかわらず、周囲に大きな迷惑をかけてしまうものです。子どもたちにはそうしたことを正しく理解させ、インターネットに書き込む際は、現実世界と同様、自分の発言に責任を持たなくてはいけない、ということを学校全体で指導していくことが大切です。